



「『森のようちえん』をつくりたい」。今一番の大きな野望。子どもたちが自然の中で元気に飛び跳ねる。お母さんも子どもと一緒に緑に抱かれる。大人が何かを教え指導するのではなく、自然の中から学び体験する。そんな自主保育の幼稚園がイメージ。その第一歩として、昨年始めた手作り農園も2年目。少し慣れてきたので、今年は収穫した野菜を使った料理メニューの開発も新たな取り組みのポイント。さあ、雪解けとともに、もうすぐ準備作業の始まり。

「健康野菜を作ってみよう」。去年、その思いが旭川福祉専門学校に届きました。

校内に「ふれあい農園」が実現したのです。6月、介護福祉、保育両科の学生と一緒に野菜作りが始まりました。モットーは「出来る人が出来る時に、無理せず楽しく」。

26組76人の親子が和気あいあい無農薬、有機野菜作りに挑戦、成果は月1回発行の手作り「ふれあい農園通信」で紹介しています。

「種も学校で用意してくれたし、ほとんど学生さんがやってくれたんですけれどね」。

「草ぼうぼうにしておく、そこは迷路。草の種でおまごことご飯のふりかけを作ったり、子供にとっては大事な遊び道具」と、親も子供も自然の遊び場が大のお気に入りです。

子供から学ぶことの多さを実感しています。「おっぱいの授乳、地域の問題、環境問題などすべて、子供がいなかったら分からなかった」と。

◇ 旭川市内で長女（9つ）を出産後、

育児ノイローゼになってしまいました。それがきっかけで、ママさん同士の情報ネットワークの必要性を感じ。子育てサークルを立ち上げました。育児ママが集まる活動に積極的にかかわり始めたきっかけでした。

豊かな子育て環境を求めてこの町に住宅を建て、住宅街の暮らしから脱出してきました。町内で再び子育てグループ「たんぼぼ」を結成。活動を再開しました。

「自然な環境で子どもたちを育てたい」と2年前には二女（2つ）の自宅出産にも挑戦しました。「産後17日間、夫は休みを取って家事すべてをしてくれました。おかげで家事の大変さを理解してくれた。子供が夫と一緒にその緒を切ってくれ、出産することは大変なことなんだ、と分かってくれた。自宅出産はお勧め」。

気持ちばかりが先行し、当初は周囲との誤解もあったようです。でも根っからの活動派の性分で、「森のようちえん」づくり構想は、これからまた一歩ずつ前に進みそうです。

「こんな大きなのが採れたよー」



子供をおんぶしながら農園で草取り作業



ビニール袋いっぱいの野菜収穫にみんな満足

「ふれ愛の郷」は自由に遊べる親子の場所。子育てに大切な情報交換もここから。



北工学園地域生活支援センター「ふれ愛の郷」で



ゆき なおこ 湯佐 奈緒子さん 子育てグループ「たんぼぼ」代表/22区 ☎090-6447-1793

旭川市出身。道立旭川凌雲高校卒。旭川市内で会社勤め後結婚。現在2児の母親。「自然に近い環境での子育てをしたい」という思いから、7年前東川町内に移住。昨年旭川福祉専門学校とタイアップして、学校用地の一部を借りて手作り野菜を栽培する「ふれあい農園」活動を始めました。今年は2年目への挑戦。今、自然保育、自主保育ができる「森のようちえん」実現に向けて活動準備を進めています。